

令和3年度 事業報告書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

学校法人 山村学園

1. 法人の概要

2. 財務の概要

3. 山村学園短期大学

1. 法人の概要

(1) 基本情報

学校法人 山村学園（法人本部）
埼玉県川越市田町 16 番地 2

(2) 建学の精神（校訓）、教育目標

「質実」素直な気持ちを持ち、感謝の気持ちを持って働く人間を育成する。
「英知」高い知性と優れた創造力を発揮できる人間を育成する。
「愛敬」人を慈しみ、尊敬する心を持った人間を育成する。
(教育目標)
「地域社会に貢献できる、心豊かで有為な人材の育成」

(3) 学校法人の沿革

昭和26年3月1日	学校法人山村学園として設置認可
昭和26年4月1日	入間郡坂戸町に山村女子高等学校を開校 家庭科を設置
昭和33年4月1日	山村女子高等学校に商業科を設置
昭和34年7月1日	川越市にあらたに山村女子高等学校設置認可
昭和34年11月3日	坂戸町の既設の山村女子高等学校を山村第二女子高等学校と校名改称、同校商業科は川越市の山村女子高等学校に移設
昭和35年4月1日	山村女子高等学校開校
昭和43年4月1日	山村女子高等学校に普通科を設置
昭和44年4月1日	山村第二女子高等学校家庭科を服飾デザイン科に改称
昭和52年1月5日	山村第二女子高等学校に普通科設置認可
昭和52年4月1日	山村第二女子高等学校に普通科を設置
昭和63年12月22日	山村女子短期大学設置認可
平成元年4月1日	山村女子短期大学開学(国際文化科)
平成3年4月1日	山村第二女子高等学校を山村国際女子高等学校に校名改称
平成11年4月1日	山村国際女子高等学校を山村国際高等学校に校名改称(男女共学化)
平成13年8月1日	山村女子短期大学(国際文化科)の改組転換によりコミュニケーション学科設置
平成13年12月20日	山村女子短期大学に保育学科設置認可
平成13年3月31日	山村国際高等学校服飾デザイン科を廃止
平成14年4月1日	山村女子短期大学を山村学園短期大学に校名改称、並びに保育学科新設(男女共学化)
平成17年3月31日	山村女子高等学校商業科を廃止
平成17年3月31日	山村学園短期大学国際文化科を廃止
平成20年4月1日	山村女子高等学校を山村学園高等学校に校名改称(男女共学化)
平成24年4月1日	山村学園短期大学コミュニケーション学科をキャリア コミュニケーション学科に名称変更
平成27年3月31日	山村学園短期大学キャリア コミュニケーション学科を廃止
平成31年4月1日	山村学園短期大学保育学科を子ども学科に名称変更

(4) 設置する学校・学部・学科等・所在地

山村学園短期大学	子ども学科	埼玉県比企郡鳩山町石坂字大平 604
山村学園高等学校	全日制課程（普通科）	埼玉県川越市田町 16-2
山村国際高等学校	全日制課程（普通科）	埼玉県坂戸市千代田 1-2-23

(5) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(令和4年5月1日現在)

学校名		入学定員	入学者数	収容定員	現員数
山村学園短期大学	子ども学科	100	70	200	134
山村学園高等学校	普通科	400	552	1,200	1,258
山村国際高等学校	普通科	240	333	720	809

(6) 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

学校名	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
山村学園短期大学	0.70	0.71	0.71	0.69	0.67
山村学園高等学校	1.18	1.27	1.11	0.98	1.05
山村国際高等学校	1.35	1.40	1.30	1.13	1.12

(7) 役員の概要

(令和4年5月1日現在)

<理事定数：7人 現員：7人、監事定数2人 現員2人>

役員	職名	氏名	常勤・非常勤の別	選任区分	選任条項	任期	現職等
	理事	おか 岡 実	非常勤	理事長	第5条第2項	H20.4.1 ~ 2008.4.1 ~	
				理事会選任	第6条第1項第3号	R2.6.16 ~ R7.6.15 2020.6.16 ~ 2025.6.15	
	〃	の ぐち かず お 野 口 一 夫	常 勤	学長	第6条第1項第1号	H24.4.1 ~ 2012.4.1 ~	山村学園短期大学 学長
	〃	ひら の まさ み 平 野 正 美	常 勤	校長	第6条第1項第1号	H30.4.1 ~ 2018.4.1 ~	山村学園高等学校 校長
	〃	なか やま たつ ろう 中 山 達 朗	常 勤	評議員会選任	第6条第1項第2号	H31.4.1 ~ R6.1.9 2019.4.1 ~ 2024.1.9	山村国際高等学校 校長
	〃	やま むら ひろし 山 村 寛	非常勤	評議員会選任	第6条第1項第2号	H31.1.10 ~ R6.1.9 2019.1.10 ~ 2024.1.9	
	〃	やま ぐち いち ろう 山 口 一 郎	非常勤	理事会選任	第6条第1項第3号	R3.4.1 ~ R8.3.31 2021.4.1 ~ 2026.3.31	※学外者
	〃	ふじ の せい た 藤 野 清 太	非常勤	理事会選任	第6条第1項第3号	H31.1.10 ~ R6.1.9 2019.1.10 ~ 2024.1.9	※学外者
	監 事	こはやしまつたろう 小林 松太郎	非常勤	理事長選任	第7条第1項	R2.6.16 ~ R7.6.15 2020.6.16 ~ 2025.6.15	
	〃	い とう つかさ 伊 藤 司	非常勤	理事長選任	第7条第1項	H31.1.10 ~ R6.1.9 2019.1.10 ~ 2024.1.9	司法書士

①非業務執行理事等との責任限定契約の状況

寄附行為第46条（責任限定契約）に基づき、非業務執行理事（山村 寛氏、山口一郎氏及び藤野清太氏の各氏）及び監事（伊藤 司氏及び小林松太郎氏の両氏）との責任限定契約を締結しております。

②役員等を被保険者として加入している役員賠償責任保険契約の状況

理事会の決議に基づき、役員賠償責任保険に加入しております。

ア) 保険会社 三井住友海上火災保険株式会社

イ) 被保険者(無記名式) 学校法人山村学園の理事7名、監事2名、評議員（理事兼務を除く）9名

ウ) 保険の名称 学校法人向け役員賠償責任保険

エ) 支払事由及び支払限度額

・支払事由

被保険者である理事、監事、評議員がその地位に基づき行った行為（不作為を含む）に起因して損害賠償がなされたことにより、被保険者が被る損害賠償金や訴訟費用等。

・支払限度額

3億円

(8) 評議員の概要

(令和4年5月1日現在)

<評議員定数：15人 現員15人>

評 議 員	氏 名	選任区分	選任条項	任 期	現 職 等
	の ぐち かず お 野 口 一 夫	学長	第22条第1項第1号	H31.1.10 ～ R6.1.9 2019.1.10 ～ 2024.1.9	山村学園短期大学 学長
	ひら の まさ み 平 野 正 美	校長	第22条第1項第1号	H31.1.10 ～ R6.1.9 2019.1.10 ～ 2024.1.9	山村学園高等学校 校長
	なか やま たつ ろう 中 山 達 朗	法人の職員	第22条第1項第2号	H31.4.1 ～ R6.1.9 2019.4.1 ～ 2024.1.9	山村国際高等学校 校長
	やま むら まさ こ 山 村 昌 子	法人の職員	第22条第1項第2号	R2.4.1 ～ R6.1.9 2020.4.1 ～ 2024.1.9	山村学園短期大学 事務局次長
	ごとう りゅうじ ろう 後藤 隆二郎	法人の職員	第22条第1項第2号	H31.1.10 ～ R6.1.9 2019.1.10 ～ 2024.1.9	山村学園高等学校 教頭
	とみ なが かず お 富 永 一 男	法人の職員	第22条第1項第2号	H31.1.10 ～ R6.1.9 2019.1.10 ～ 2024.1.9	山村国際高等学校 教頭
	おか みのゑ 岡 実	理事の互選	第22条第1項第3号	R2.6.16 ～ R7.6.15 2020.6.16 ～ 2025.6.15	
	やま ぐち いち ろう 山 口 一 郎	理事の互選	第22条第1項第3号	R3.4.1 ～ R8.3.31 2021.4.1 ～ 2026.3.31	
	さか た まさ え 坂 田 正 枝	卒業生	第22条第1項第4号	H31.1.10 ～ R6.1.9 2019.1.10 ～ 2024.1.9	
	の じま やす こ 野 島 康 子	卒業生	第22条第1項第4号	H31.1.10 ～ R6.1.9 2019.1.10 ～ 2024.1.9	
	とよ いずみ きよ こ 豊 泉 清 子	卒業生	第22条第1項第4号	H31.1.10 ～ R6.1.9 2019.1.10 ～ 2024.1.9	
	はぎ わら もと お 萩 原 基 雄	卒業生	第22条第1項第4号	H31.1.10 ～ R6.1.9 2019.1.10 ～ 2024.1.9	あたご保育園 園長
	やま むら ひろし 山 村 寛	学識経験者	第22条第1項第5号	H31.1.10 ～ R6.1.9 2019.1.10 ～ 2024.1.9	
	くろ さわ かず ゆき 黒 澤 一 幸	学識経験者	第22条第1項第5号	R4.1.10 ～ R6.1.9 2022.1.10 ～ 2024.1.9	
	た なか ひさ こ 田 中 久 子	学識経験者	第22条第1項第5号	H31.4.1 ～ R6.3.31 2019.4.1 ～ 2024.3.31	

(9) 教職員の概要

教職員の本務・兼務別の人数

(令和4年5月1日現在)

区 分	教 員		職 員		合 計
	本務	兼務	本務	兼務	
法人本部	0	0	4	1	5
山村学園短期大学	11	18	5	7	41
山村学園高等学校	76	34	9	5	124
山村国際高等学校	55	23	6	5	89
計	142	75	24	18	259

2. 財務の概要

(1) 決算の概要

①貸借対照表関係

貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

科 目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
固定資産	6,367,144	6,458,037	6,471,117	6,515,415	6,503,668
有形固定資産	5,575,401	5,581,949	5,697,175	5,614,369	5,471,279
特定資産	631,821	716,821	631,821	761,821	896,821
その他の固定資産	159,923	159,268	142,121	139,225	135,568
流動資産	890,523	938,043	895,342	836,578	867,245
資産の部 合計	7,257,666	7,396,080	7,366,459	7,351,994	7,370,914
固定負債	1,197,056	1,202,163	1,134,341	1,017,396	923,464
流動負債	606,702	595,427	540,050	500,076	613,640
負債の部 合計	1,803,758	1,797,590	1,674,391	1,517,472	1,537,104
基本金	8,847,795	9,033,731	9,405,640	9,637,810	9,714,965
繰越収支差額	△ 3,393,886	△ 3,435,241	△ 3,713,572	△ 3,803,288	△ 3,881,155
純資産の部 合計	5,453,908	5,598,490	5,692,068	5,834,522	5,833,810
負債及び純資産の部 合計	7,257,666	7,396,080	7,366,459	7,351,994	7,370,914

②資金収支計算書関係

ア) 資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収 入 の 部	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
学生生徒等納付金収入	1,231,240	1,315,107	1,346,698	1,235,945	1,128,647
手数料収入	84,631	77,148	59,491	62,413	82,424
寄付金収入	21,709	19,432	42,360	23,655	23,373
補助金収入	927,405	904,540	889,709	946,544	951,921
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	33,227	32,555	35,251	36,044	32,161
受取利息・配当金収入	8	3	5	1	1
雑収入	120,702	146,659	142,421	82,615	127,605
借入金等収入	0	132,000	60,000	0	30,000
前受金収入	315,433	278,320	215,515	232,439	290,647
その他の収入	732,614	795,183	1,024,153	980,930	885,774
資金収入調整勘定	△ 416,007	△ 451,070	△ 401,538	△ 306,966	△ 365,437
前年度繰越支払資金	793,886	781,585	799,852	771,660	744,827
収入の部合計	3,844,848	4,031,461	4,213,917	4,065,279	3,931,943

(単位：千円)

支 出 の 部	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
人件費支出	1,525,907	1,568,587	1,630,322	1,537,324	1,578,532
教育研究経費支出	421,201	392,622	412,951	332,520	390,809
管理経費支出	158,339	152,011	150,391	142,576	138,864
借入金等利息支出	7,285	7,213	7,996	7,056	6,386
借入金等返済支出	120,008	114,710	134,434	113,948	116,348
施設関係支出	10,743	201,996	273,217	40,030	62,656
設備関係支出	44,642	32,072	47,435	103,157	24,440
資産運用支出	175,000	85,000	65,000	140,000	135,000
その他の支出	756,820	831,293	867,006	971,683	883,468
資金支出調整勘定	△ 156,683	△ 153,894	△ 146,496	△ 67,843	△ 138,686
翌年度繰越支払資金	781,585	799,852	771,660	744,827	734,126
支出の部合計	3,844,848	4,031,461	4,213,917	4,065,279	3,931,943

イ)活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科 目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入 計	2,404,537	2,476,929	2,480,220	2,339,381	2,312,806
教育活動資金支出 計	2,105,357	2,113,220	2,193,662	2,012,374	2,108,200
差 引	299,181	363,709	286,558	327,007	204,606
調整勘定等	46,492	△ 65,651	△ 63,025	3,807	76,282
教育活動資金収支差額	345,672	298,058	223,533	330,814	280,888
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入 計	14,377	18,511	185,710	57,832	33,326
施設整備等活動資金支出 計	230,385	319,067	385,652	253,187	192,096
差 引	△ 216,009	△ 300,556	△ 199,942	△ 195,354	△ 158,770
調整勘定等	△ 3,069	△ 5,406	4,856	△ 33,799	11,565
施設整備等活動資金収支差額	△ 219,078	△ 305,962	△ 195,086	△ 229,153	△ 147,205
小計（教育活動資金収支差額 ＋施設整備等活動資金収支差額）	126,595	△ 7,904	28,447	101,661	133,683
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入 計	621,490	822,565	798,522	847,715	824,323
その他の活動資金支出 計	760,386	796,393	855,161	976,208	968,707
差 引	△ 138,896	26,172	△ 56,639	△ 128,493	△ 144,384
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	△ 138,896	26,172	△ 56,639	△ 128,493	△ 144,384
支払資金の増減額 (小計＋その他の活動資金収支差額)	△ 12,301	18,268	△ 28,192	△ 26,833	△ 10,701
前年度繰越支払資金	793,886	781,585	799,852	771,660	744,827
翌年度繰越支払資金	781,585	799,852	771,660	744,827	734,126

③事業活動収支計算書関係

事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科 目		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	1,231,240	1,315,107	1,346,698	1,235,945	1,128,647
	手数料	84,631	77,148	59,491	62,413	82,424
	寄付金	9,957	8,952	9,925	10,560	10,280
	経常費等補助金	924,780	896,509	886,534	912,745	931,689
	付随事業収入	33,227	32,555	35,251	36,044	32,161
	雑収入	120,702	146,659	142,421	82,612	127,605
	教育活動収入 計	2,404,537	2,476,929	2,480,320	2,340,319	2,312,806
	事業活動支出の部					
	人件費	1,529,956	1,570,830	1,628,448	1,533,727	1,576,948
	教育研究経費	592,756	561,691	588,091	513,180	577,114
	管理経費	205,477	197,327	197,931	191,691	186,391
	徴収不能額等	0	0	0	0	0
	教育活動支出 計	2,328,190	2,329,848	2,414,470	2,238,598	2,340,454
	教育活動収支差額	76,348	147,081	65,850	101,721	△ 27,648
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	8	3	5	1	1
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入 計	8	3	5	1	1
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	7,285	7,213	7,996	7,056	6,386
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出 計	7,285	7,213	7,996	7,056	6,386
	教育活動外収支差額	△ 7,277	△ 7,209	△ 7,991	△ 7,055	△ 6,385
経常収支差額		69,070	139,872	57,859	94,666	△ 34,033
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	0	0	0	0
	その他の特別収入	14,377	19,041	35,721	47,835	33,326
	特別収入 計	14,377	19,041	35,721	47,835	33,326
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	1,681	14,332	0	0	0
	その他の特別支出	91	0	2	47	5
	特別支出 計	1,772	14,332	2	47	5
	特別収支差額	12,605	4,710	35,719	47,788	33,321
基本金組入前当年度収支差額		81,675	144,582	93,578	142,454	△ 712
基本金組入額合計		△ 67,709	△ 185,936	△ 373,481	△ 232,170	△ 99,843
当年度収支差額		13,966	△ 41,355	△ 279,904	△ 89,716	△ 100,555
前年度繰越収支差額		△ 3,727,704	△ 3,393,886	△ 3,435,241	△ 3,713,572	△ 3,803,288
基本金取崩額		319,852	0	1,573	0	22,689
翌年度繰越収支差額		△ 3,393,886	△ 3,435,241	△ 3,713,572	△ 3,803,288	△ 3,881,155
(参考)						
事業活動収入 計		2,418,922	2,495,974	2,516,046	2,388,155	2,346,133
事業活動支出 計		2,337,247	2,351,392	2,422,469	2,245,701	2,346,845

3. 山村学園短期大学

- 1 概要
- 2 建学の精神、教育目標、三つのポリシー
- 3 18歳人口
- 4 学生募集
- 5 生活指導
- 6 求人・就職
- 7 本学への評価
- 8 財務状況
- 9 行政の施策
- 10 令和3年度(2021年度)事業報告一覧表

I. 現状

1. 概要

令和4年度入試において入学予定者が70名（71名合格で1名が辞退）となった。昨年度の65名を上回ったが、目標としていた80名は達成することはできず、財務状況は依然厳しい状況である。

教育面では、満足度調査、授業評価、就職先からの評価などは、一定レベル以上であり、引き続き充実が図られているが、授業アンケート及び卒業時に実施する満足度調査においては、前年度を下回る数字となり、コロナ禍による教育活動への影響があったと考えられる。

令和3年度においても、私立大学等改革総合支援事業補助金制度、高等教育無償化、幼児教育の無償化への対応に重点的に取り組み、私立大学等改革総合支援事業補助金では、タイプ1、タイプ3については1～2点差で獲得できなかった。

学習成果や三つのポリシーの見直しについては、例年通り点検を進めることができた。

就職に関しては、保育者のニーズが高く、依然高い就職率を維持している。この傾向は向後数年間は続くと思われる。

2. 建学の精神、教育目標、三つのポリシー

(1)建学の精神、教育目標

山村学園短期大学 教育方針
○校訓（建学の精神の流れをくむシンボリックなもの） 「質実」 素直な気持ちを持ち、感謝の気持ちを持って働く人間を育成する。 「英知」 高い知性と優れた創造力を発揮できる人間を育成する。 「愛敬」 人を慈しみ、尊敬する心を持った人間を育成する。
○寄附行為 「この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、社会の発展に有為な人材を育成することを目的とする。」
○短大学則第1条第2項 「本学は、学校教育法に基づき、現代社会に対応し、人間に対する深い理解と愛情を備えた心豊かな人材を育成し、もって広く社会の発展に寄与することを目的とする。」
○短大学則第1条第3項 「保育学科においては、高い保育の専門性と豊かな人間性を兼ね備え、地域社会に貢献できる骨太な幼稚園教諭・保育士の養成と、その基礎となる教育研究の推進を目的とする。」

(2) 山村学園短期大学子ども学科 3つのポリシー

①ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

子ども学科では、建学の精神（質実・英知・愛敬）、学則にある短期大学及び子ども学科の目的に則り、学則第43条（卒業）に示す所定の教育課程を修め、66単位以上を累積 GPA 一定以上の成績で修得し、以下のような知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を備えた者に対し、その卒業を認定し短期大学士の学位を授与します。

（知識・技能）

- ・ 保育者としての専門的知識・技能
- ・ 社会人として必要な教養・知識

（思考力・判断力・表現力）

・ 獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、職業や社会における諸問題を自ら発見、分析、解決方法について
考察する力、さらに自分の考えを他者に口頭、文章、あるいは身体をもつて的確に表現する力

（主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）

- ・ 保育への情熱と使命感を持って社会に貢献しようとする積極的な態度
- ・ 人や自然を深く愛し、慈しむ態度
- ・ 社会人として必要なマナー・常識・態度

②カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

子ども学科では、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）及びアドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）に示した資質・能力・態度を総合的に備えた学生を育成するために、以下のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に基づいて教育課程を編成するとともに、学生の学修学習過程や学修方法が明示された教育内容、教育方法をもって授業を実施し教育評価を行います。

（教育内容）

・ 保育者としての専門的知識・技能をはじめとして、思考力・判断力・表現力、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を育むため、教養科目及び専門科目を科目内容の分野や関連性から記号・番号をつけ、体系的、系統的にふまえて配置し、学生が学びの全体像や科目間の関連を容易に理解できるようにカリキュラムツリーを作成します。

・ 保育者としての使命感や態度、社会貢献への積極的な姿勢、人や自然を深く愛し、慈しむ態度等を涵養するため、学内外の自然・社会環境を利用した体験型の学習を取り入れた科目を配置します。

・ 1年次には、建学の精神を理解し、大学における学びへの適応を速やかにするとともに、社会性や学ぶ力の基礎を育むため「基礎演習」・「キャリアアップ・セミナーⅠ」を、2

年次には主体性、協働性、対話性、人間力を高めるため「総合演習」「キャリアアップ・セミナーⅡ」をそれぞれ配置します。

- ・保育士資格及び幼稚園教諭二種免許状の取得に関する科目による幼稚園教諭・保育士養成課程を編成するとともに、その他保育者として資質向上に資する資格が取得できる科目を配置します。

(教育方法)

- ・シラバスには、各授業科目の到達目標や毎回の授業の予習・復習内容などを具体的に示すことで、学生の主体的で効果的な学習を支援します。

- ・授業科目の内容に応じて、アクティブ・ラーニング、グループワーク、プレゼンテーション、ゼミナール形態等を取り入れ、学生自身の問題発見、資料収集と分析、解決方法の検討、討議・発表の機会を多く提供することに努めます。

- ・保育の内容や保育技術、実習準備に関する科目については、少人数編成で効果的に学習できる授業展開とします。

- ・免許・資格取得のための現場実習や現場体験の学習を段階的に行い、これらを通じて保育者としての資質・能力・態度の修得に資するようにします。

(評価)

- ・単位認定にあたっては、シラバスに開示する成績評価と基準によって厳格な成績評価を行うとともに、半期ごとに GPA によって学修成果の達成状況を評価し、一定の GPA をクリアするよう学修支援・指導を行います。また、学生は学年ごとに自身の学習ポートフォリオを作成し、自らの学びの成果を自己点検・自己評価することができます。

- ・授業アンケートを半期ごとに実施し、個々の授業内容や方法の改善やカリキュラム編成の改善を検討します。

③アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

子ども学科では、建学の精神（「質実」、「英知」、「愛敬」）を理解するとともに、現代社会に対応し、人間に対する深い理解と愛情を備えた心豊かで広く社会の発展に寄与できる人材の育成方針に共感する、次のような者の入学を期待しています。

(知識・技能)

- ・幼児教育・保育の学習に必要な十分な基礎学力を備えている。
- ・音楽、造形、言語・身体などの表現技術などに親しんでいる、あるいはこれらを今後学ぶにふさわしい豊かな感性をもっている。
- ・社会人として必要な教養・知識を身につけようとする姿勢をもっている。

(思考力・判断力・表現力)

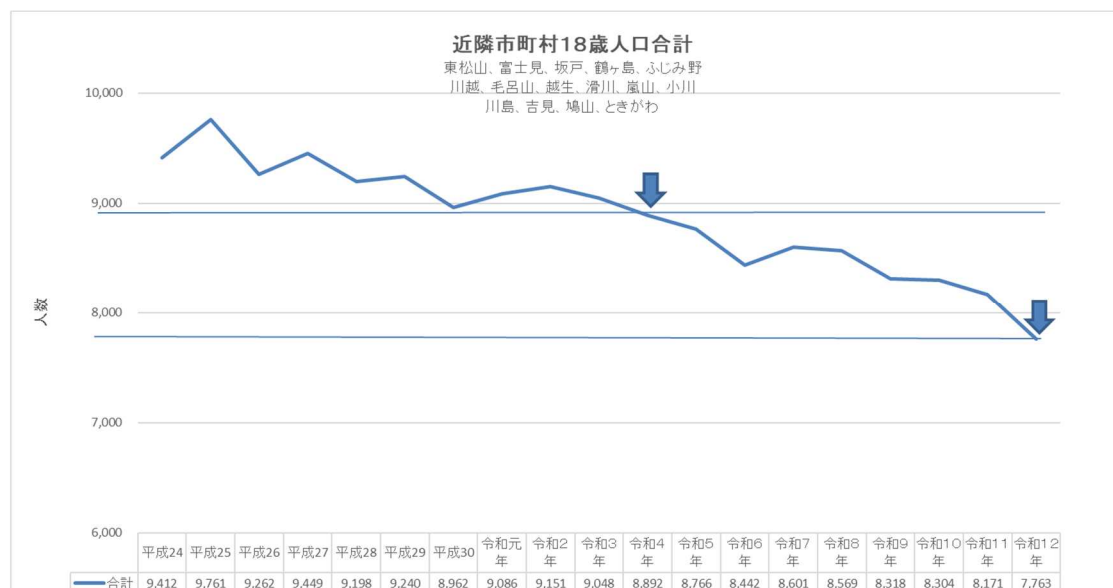
- ・学びの基礎となる読む、書く、聞く、話す能力や自ら課題を発見し、考え、判断し、行動できる力を高めようとする姿勢をもっている。

(主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)

- ・幼児教育・保育に情熱と使命感をもって取り組むことができる。

- ・人や動植物、自然に対する深い愛情を持っている。
- ・笑顔、挨拶、言葉づかいなど基本的な対人関係能力を備えている。

3. 18歳人口



令和3年と令和4年を比較すると1.7%の減少。令和4年度と令和12年度では、12.7%の減少となる。ただし、この図は人口流入の予測値は反映されておらず、単純に年齢別の人口を拾った数値である。平成30年度から令和4年度の近隣市町村の18歳人口は、8,800人以上と減少幅が一時的に少なかったが、令和5年、令和6年と一気に18歳人口が減少する。

4. 学生募集

入学者数推移（人）

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
人数	71	70	74	65	70

上の表は、過去3年間の保育学科合格者数を示したものである。

	h27	h28	h29	H30	R1	R2	R3	R4	合計	平均
川越市	10	10	10	6	9	8	10	8	71	8.9
東松山	12	6	10	5	8	9	5	7	62	7.8
坂戸	6	10	5	9	5	6	6	13	60	7.5
鶴ヶ島	3	6	3	5	4	3	2	4	30	3.8
寄居町	2	2	5	3	5	3	4	1	25	3.1
毛呂山	4	3	2	5	2	3	4	2	25	3.1
小川町	6	5	3	0	2	3	4	1	24	3.0
日高市	6	1	1	1	5	1	2	2	19	2.4
ふじみ野市	4	3	4	4	0	0	1	3	19	2.4
秩父市	7	2	2	0	1	1	2	0	15	1.9
吉見町	2	3	2	3	2	0	0	2	14	1.8
富士見市	0	5	0	2	1	4	0	0	12	1.5
鳩山町	1	3	3	1	0	3	1	4	16	2.0
川島	3	3	1	2	1	1	0	1	12	1.5
嵐山	0	1	2	2	3	1	2	0	11	1.4
熊谷	2	0	1	1	0	3	4	1	12	1.5
秩父郡	1	0	3	0	1	3	1	0	9	1.1
越生	2	1	0	0	2	1	2	1	9	1.1
所沢市	0	1	1	1	2	2	1	1	9	1.1
滑川	2	1	1	0	1	1	2	2	10	1.3
深谷	2	2	1	1	0	0	0	1	7	0.9
狭山市	0	2	1	0	1	2	0	1	7	0.9
入間市	2	0	0	0	1	2	0	0	5	0.6
飯能市	1	1	0	1	0	0	2	0	5	0.6
ときがわ	0	0	1	1	0	1	2	3	8	1.0
上尾市	2	0	2	0	0	0	0	0	4	0.5
さいたま市	1	1	0	0	0	1	0	0	3	0.4
鴻巣市	0	2	0	0	0	0	1	1	4	0.5
行田市	0	0	1	1	0	0	0	0	2	0.3
桶川市	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.1
北本市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0

合計 81 74 65 54 56 62 59 59

左表は、過去 8 年間の主な市町村別入学者人数（職訓生除く）である。

東松山、川越、坂戸、鶴ヶ島などが多い。令和 4 年度入試では、近隣地区からは昨年、一昨年と同様の傾向が見られ、昨年と同じ合計 59 名となった。

主な高校からの入学者数

高校名	H28	H29	H30	令和元	令和2	令和3	令和4
山村国際高校	12	10	8	6	10	8	7
川越西高校	6	3	4	6	5	6	5
小川高校	6	4	5	5	5	5	1
県立越生	0	2	0	5	1	2	1
松山女子高校	1	1	5	3	3	1	2
武蔵越生	0	3	4	3	1	0	6
寄居城北	1	3	2	3	4	2	1
新座柳瀬	0	1	2	3	0	0	0
鴻巣女子高校	2	6	0	3	2	0	3
筑波大学付属坂戸高校	1	0	2	2	1	1	0
埼玉平成高校	1	2	1	2	1	0	1
川越初雁高校	0	1	1	2	1	0	0
狭山清陵高校	0	0	1	2	1	2	0
滑川総合高校	5	5	4	1	3	6	8
秋草学園高校	2	2	3	1	0	1	0
鳩山高校	3	3	1	1	2	1	2
富士見高校	1	2	1	1	1	0	2
飯能南	0	0	1	1	1	1	0
飯能高校	0	0	0	1	1	1	0
朝霞西	1	0	0	1	0	0	1
東京成徳大学深谷高校	3	1	3	0	2	1	0
鶴ヶ島清風高校	2	3	2	0	1	5	6
川越総合高校	1	0	2	0	2	1	0
山村学園高校	2	3	1	0	3	0	3
坂戸西高校	8	2	1	0	2	0	5
志木高校	5	2	1	0	1	0	1
豊岡	0	0	1	0	0	0	0
ふじみ野	0	0	1	0	0	0	1
市立川越	0	0	1	0	0	0	0
伊奈総合学園高校	0	1	0	0	0	0	0
誠和福祉高校	0	1	0	0	0	0	0
日高高校	1	0	0	0	0	0	1
本庄第一	1	0	0	0	0	1	0
正智深谷高校	0	0	0	0	0	1	0
大宮武蔵野高校	0	0	0	0	0	0	0
朝霞高校	0	0	0	0	1	0	1
西武台	0	0	0	0	0	0	0
深谷商業高校	0	0	0	0	0	0	0
狭山経済	0	0	0	0	0	0	0
秩父農工科学	1	2	0	0	0	1	1
川越南	0	1	0	0	0	1	0
	66	64	58	52	55	48	59

左の表は、過去 7 年間の主な高校別入学者数である。本学の特徴として、ひとつの高校から複数名が入学する傾向がある。令和 4 年度入試では、山村国際、滑川総合、鶴ヶ島清風、川越西などが安定的な数字となっている。むさし越生、鴻巣女子、山村学園、坂戸西で数字を伸ばした。寄居城北では数字が増えない傾向がある。しかしながら、全体として 59 名で、あり、前年度比プラス 11 名となった。

資料請求数・オープンキャンパス参加者数・入学者数

	H28	H28 割合	H29	H29 割合	H30	H30 割合	R1	R1 割合	R2	R2 割合	R3	R3 割合
資料請求数	1006	100%	943	100%	657	100%	968	100%	918	100%	714	100%
参加者人数（延べ数）	364	36%	277	29%	318	48%	278	29%	237	26%	307	43%
参加者人数（1、2、3年生以上の実質数）	239	24%	179	19%	193	29%	182	19%	144	16%	169	24%
参加者人数（3年生以上の実質数）	141	14%	125	13%	110	17%	98	10%	105	11%	103	14%
次年度志願者数	74	7.4%	64	6.7%	65	10%	57	6%	57	6%	70	10%

次年度志願者数/参加者人数（3年生以上の実質数） 52% 51% 59% 58% 54% 68%

上の表は、平成28年度からのオープンキャンパス（年に12回程度）の参加状況と次年度志願者数をまとめたものである。令和3年度は、資料請求数が前年度よりも200人減っている。その一方でオープンキャンパスに参加した3年生以上の受験生のうち68%（前年度比14%増）が実際に志願しており、かなり高い志願率を維持している。これらの数字の変動は、①ウェブから情報を得る傾向が増したこと、②オープンキャンパスに行くときには、かなり行く先を絞ってから参加する、などの傾向があると思われる。したがって、本学としてはかなり早期に十分な情報を発信し、オープンキャンパスに参加してもらうことが重要である。

5. 生活指導

	平成26年度生 97名入学 →92名	平成27年度生 94名入学 →83名	平成28年度生 87名入学 →79名	平成29年度生 73名入学 →67名	平成30年度生 71名入学 →70名	令和元年度生 70名入学 →68名	令和2年度生 72名入学 →67名	令和3年度生 65名入学 →62名
1年時 退学者数	5	10	8	6	1	2	1	3
2年時 退学者数	0	1	1	0	0	1	4	-
退学者数 合計	5	11	9	6	1	2	5	3

上の表は、退学者数を表したものである。令和2年度の入学者については、5名が退学し、令和3年度は、3名が退学となった。それらのうち、令和3年度中に退学した学生は、5名おり、前年度に比べ多くの退学、除籍者を出してしまった。理由は精神疾患、学費未納など個人や家庭の事情によるものではあるが、今後も個別面談、3者面談などを実施し、保護者との連携を図り「退学防止チャート図」を基に、全学を挙げて退学防止に努めていく。

6. 求人・就職

求人票の受付数

R3

	県内	県外	合計
保育所	202	276	478
幼稚園	212	119	331
施設	64	26	90

R2

	県内	県外	合計
保育所	198	256	454
幼稚園	177	121	298
施設	64	25	89

R1

	県内	県外	合計
保育所	267	353	620
幼稚園	208	116	324
施設	31	42	73

左の表は、令和元年度からの求人票数の推移をまとめたものである。令和3年度の求人票数を見るとすべてにおいて前年度を上回っている。今年度は、コロナウィルスの感染状況が落ち着いた時期があり、その分求人への動きが増したのではないかと考えられる。依然として現場からのニーズは高い。

なお、求人票数とは、求人票の数であり、求人数ではない。実際の求人数は求人票数の数倍になると思われる。

また、キャリアス UC というキャリア支援サイトによる、本学宛求人票数は、令和4年3月卒業生向けが、5472（前年は5560）届いている。企業が多いが、幼稚園、保育園、施設、公務員等、全国多岐に亘っている。

7. 本学への評価

(1) 就職先からの評価

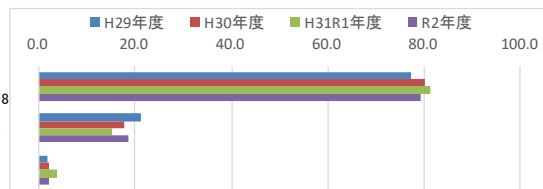
令和2(2020)年度卒業生の勤務状況調査(所属長回答)

山村学園短期大学 キャリア支援センター (2021(令和3)年9月28日
 回答率84.2%(依頼57名分・回答48名) コメントは令和3年3月卒業生に関する記述 (※前年度96.4%)

1 出勤状況 (%)

年度	H29	H30	H31R1	R2
(1)たいへんよい	77.2	80.0	81.1	79.2
(2)ふつう	21.1	17.8	15.1	18.7
(3)努力が必要	1.8	2.2	3.8	2.1

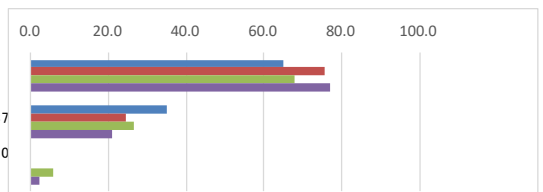
・体調を整える事が大切。



2 勤務態度 (%)

年度	H29	H30	H31R1	R2
(1)たいへんよい	64.9	75.6	67.9	77.1
(2)ふつう	35.1	24.4	26.4	20.8
(3)努力が必要	0.0	0.0	5.7	2.1

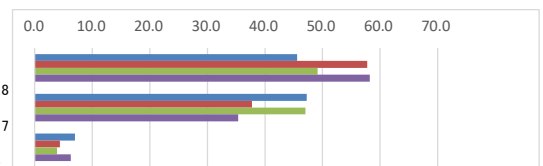
・失敗を恐れない積極性が欲しい(施設)。・自ら率先して動く努力が必要(施設)。・大変丁寧に接している。



3 幼児(施設・利用者)への関わり方

年度	H29	H30	H31R1	R2
(1)たいへんよい	45.6	57.8	49.1	58.3
(2)ふつう	47.4	37.8	47.1	35.4
(3)努力が必要	7.0	4.4	3.8	6.3

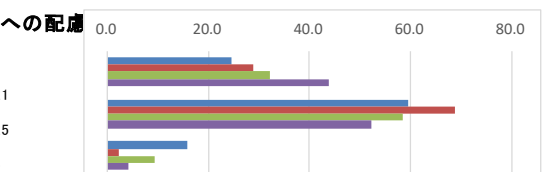
・まだ経験が浅いので今後に期待します。・他の職員の接し方を学びながら努力しています。・疑問や知らなかった事を知ろうとする努力が必要(施設)。・「ダメ」「危ない」などの声かけが多かったため、まず自分を子どもに知ってもらい共に遊び過ごすことから伝えました。・園児の声かけをもっとしてほしい。



4 環境構成力(施設等では環境整備、安全・安心への配慮)

年度	H29	H30	H31R1	R2
(1)たいへんよい	24.6	28.9	32.1	43.7
(2)ふつう	59.6	68.9	58.5	52.1
(3)努力が必要	15.8	2.2	9.4	4.2

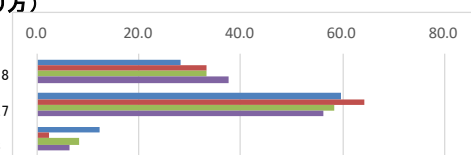
・分からない事は必ず聞いて向上心がある先生です。・ピアノが得意で伴奏等担当しています。



5 保護者への関わり方(利用者の家族への関わり方)

年度	H29	H30	H31R1	R2
(1)たいへんよい	28.1	33.3	33.3	37.5
(2)ふつう	59.6	64.4	58.3	56.3
(3)努力が必要	12.3	2.2	8.3	6.2

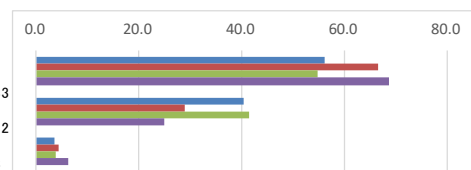
・感染予防のため保護者と関わる機会がありませんでした(多数)。・ベテラン職員と組み学びながら接しているので今後は研修等で更に学びを深め良い先生になるよう期待しています。・保護者全員の顔と名前を覚えるよう頑張ってください。



6 他の職員との協調性

年度	H29	H30	H31R1	R2
(1)たいへんよい	56.1	66.7	54.7	68.8
(2)ふつう	40.4	28.9	41.5	25.0
(3)努力が必要	3.5	4.4	3.8	6.2

・仲間の大切さを学び一歩前へ出る勇気を持ち共に現場で学んでほしい。・1年目でわからないことばかりと思いますが周りの方と協力しながら頑張っています。



7 その他(本学への要望等)

- ① 子どもの面白さ、保育の楽しさを教えてあげてください。
- ② 今後も職場環境を整え、若い世代にとって働きやすく魅力有る職場作りに努めて参ります。
- ③ 意欲があり、先生達ともすぐに馴染んで元気いっぱいに務めている。今後に期待しています。
- ④ ワードとエクセルの基本操作、写真の取り込み方などを授業で習うと良いです。
- ⑤ 文章を考えて記録する、人に的確に伝えることが苦手な学生が増えているので、実習以外でも学びを増やしてほしいです。
- ⑥ 努力している姿が素敵です。日々成長しており今後が楽しみです。これからは保育士の卵を温かく見守り保育の仕事を楽しめる生徒の育成をお願いします。
- ⑦ 上目線の態度が気になるので少しずつ理解してほしいです。
- ⑧ 積極的に動いてくれる素晴らしい保育者です。子どもとも保護者とも笑顔でコミュニケーションを取り頑張っています。
- ⑨ よく気がつき、とても良い職員です。よく頑張っています。(多数)

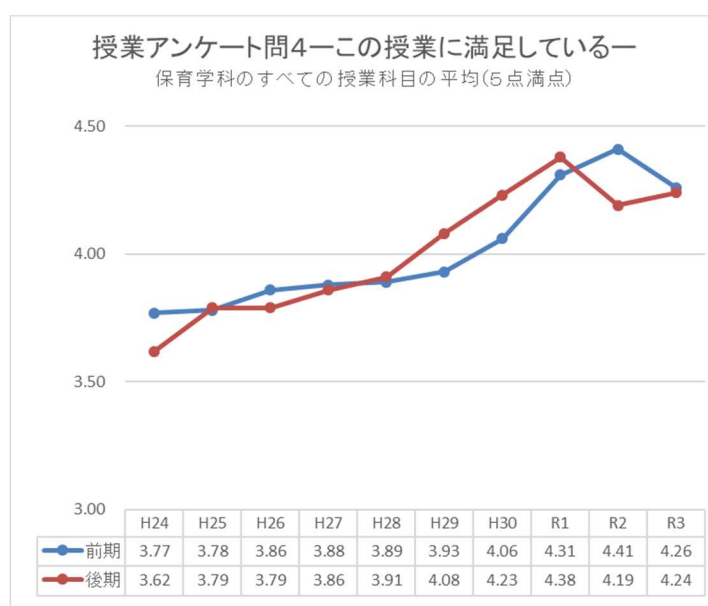
【考察と課題】

○学生指導の課題：コミュニケーション能力(協調性)、出来なくても前向きな態度(積極性)、障害児教育や障害についての知識(学ぶ姿勢)。パソコンの基本操作。子どもとの関わり方。
○記録の仕方、聞いてまとめる力。

★評価は総じて良い。コロナの影響で、子どもや保護者との関わりが少ない(無い)今後経験を積んでいこう期待するという回答が共通していた。

★課題については、障害児教育や実習指導等の授業科目はもちろんのこと、日頃より各場面で教職員が学生とコミュニケーションをとり、協調性・積極性・学び方をも養うよう促していきたい。

上の表およびグラフは、就職一年目の卒業生に対する就職先からの評価である。総合的に見て、ほとんどの項目において、前年度を上回っている。特に子どもへの関わり、保護者への関わり、職員への関わりなど、コミュニケーションに関することについて評価されている。その一方でコミュニケーション能力への要望もあり、コミュニケーション能力については、底上げをする必要がある。また、コンピュータ操作、文章作成能力などのスキルアップの必要もある。



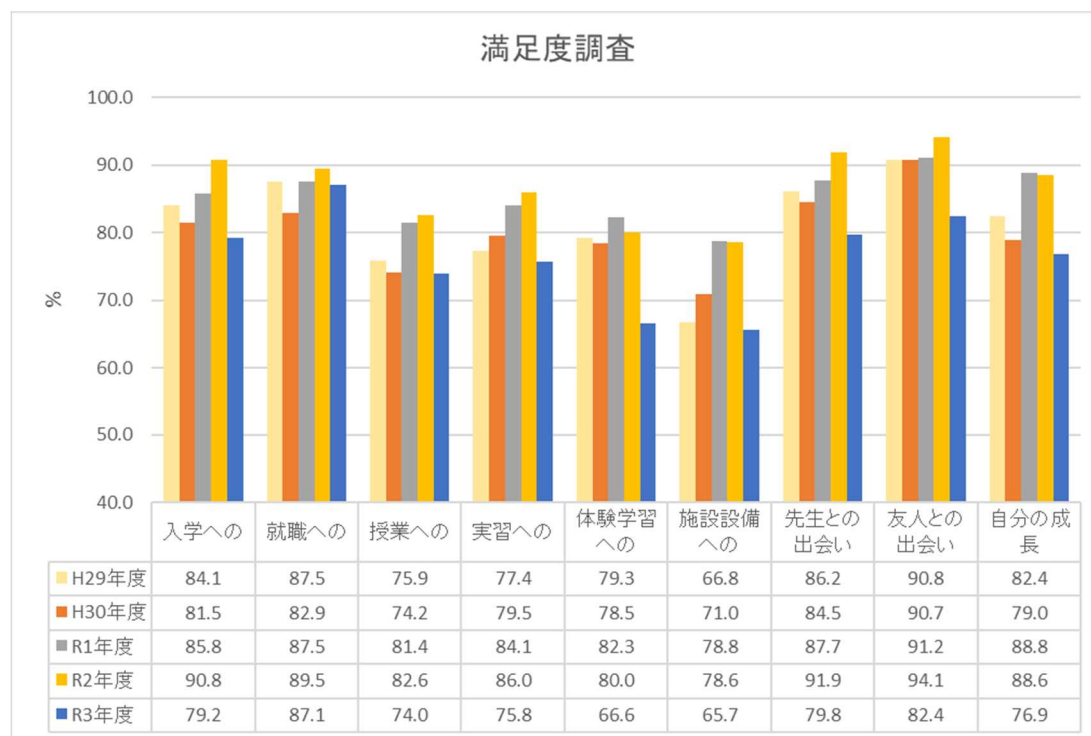
(2) 授業への評価

左のグラフは、子ども学科のすべての授業に対して、学生が5点満点で評価する満足度の調査結果の平均である。ここ数年間数値は上がり続けていたが、令和2年度の後期、令和3年度の前期、後期は数値が落ちている。

要因としては、コロナ禍により、教科に連動する行事がことごとく変更または中止となったことが挙げられる。特に現2

年生は、入学時からコロナ禍のただなかにおり、事前に広報されていた教育内容と実際との違いを目の当たりにしている点が大きく影響していると考えられる。

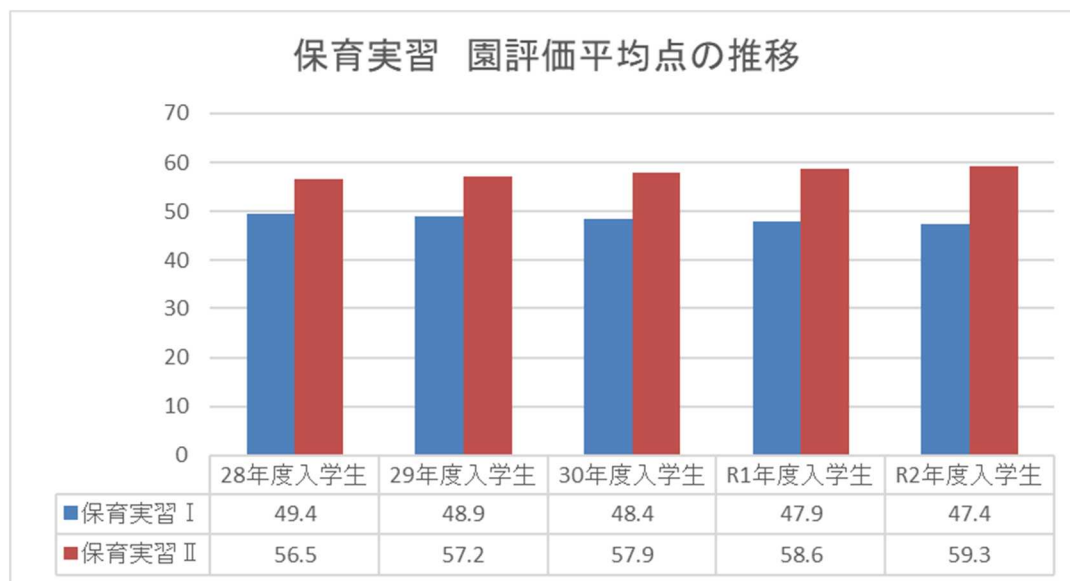
(3) 学生満足度調査



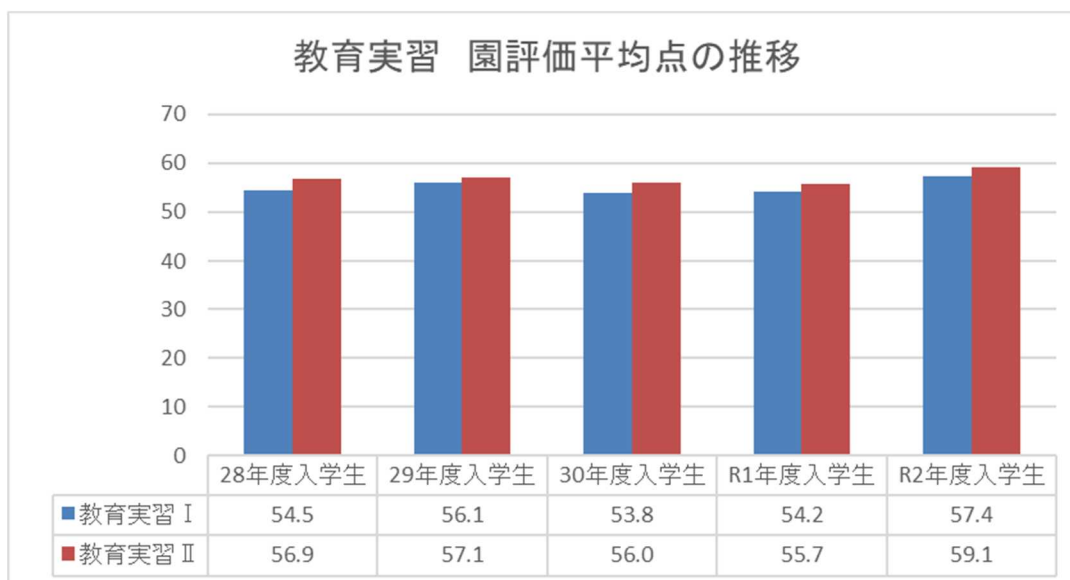
上のグラフは、短大全体について卒業生（平成 30 年 3 月卒業～令和 4 年 3 月卒業）に対して行った満足度調査の結果である。全般的に高い満足度であると言える。特に「友人との出会い」、「教員との出会い」「自分の成長」、「就職」に関して高い値となっている。

しかしながら、全般的に前年度を下回っており、原因について十分に考察する必要がある。前年度比で最も落差のあった項目は、体験学習への満足度である。この学年は、コロナ禍によりクリスマス会、学園祭、七夕などが縮小、あるいは中止となることが多く、「遊んで学ぶ」として位置づけた学習が十分できずに終わってしまった。ほとんどの授業を対面で実施することができたことへの評価はあるものの、コロナ禍での代替学習についてはさらに研究を深める必要がある。

(4) 実習での評価



上の表は、保育実習（1年生時に保育実習Ⅰ、2年生時に保育実習Ⅱを実施）に対する、園から学生への評価点の平均値を学年ごとに示したものである。評価項目の主な内容は、実習態度、保育者としての資質、指導力などである。コロナ禍においても、対面授業を継続し、実習も可能な限り実施した成果として、例年と遜色のない評価になったと思われる。



上の表は、教育実習Ⅰ・Ⅱに対する園からの学生への評価点の平均値を学年ごとにまとめたものである。平成29年入学生をピークに徐々に点数が下がっている。教育実習に関しても、対面授業を継続し、実習も可能な限り実施した成果として、例年と遜色のない評価になったと思われる。

8. 財務状況

収支推移表(令和3～7年度)

2022.3.14

	3/1現在				
1年	56+(訓練生7)	63+(訓練生7)	70+(訓練生7)	70+(訓練生7)	70+(訓練生7)
2年	62+(訓練生9)	57+(訓練生7)	63+(訓練生7)	70+(訓練生7)	70+(訓練生7)
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学生生徒等納付金収入	142,960,000	143,535,000	154,980,000	162,400,000	162,400,000
手数料収入	2,050,000	2,100,000	2,100,000	2,400,000	2,400,000
寄附金収入	790,000	7,576,000	600,000	600,000	600,000
補助金収入	25,233,800	30,000,000	30,000,000	30,000,000	30,000,000
資金運用収入	0	0	0	0	0
資産売却収入	0	0	0	0	0
付随収入	25,880,000	23,000,000	23,000,000	23,000,000	23,000,000
雑収入(施設利用料)	5,780,000	4,500,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000
借入金等収入	0	0	0	0	0
収入の部 合計	202,693,800	210,711,000	215,680,000	223,400,000	223,400,000

支出の部

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
人件費支出	148,250,000	146,630,000	148,000,000	148,000,000	148,000,000
教育研究経費支出	27,540,000	32,810,000	27,000,000	27,000,000	27,000,000
管理経費支出	25,550,000	26,732,000	24,000,000	24,000,000	24,000,000
(修繕)					
借入金等利息支出	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0
施設関係支出	0	7,000,000	0	0	0
設備関係支出	4,070,000	1,400,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
資産運用支出	0	0	0	0	0
繰出金支出	8,620,000	8,700,000	8,700,000	8,700,000	8,700,000
引当金	0	0	0	0	0
支出の部 合計	214,030,000	223,272,000	208,700,000	208,700,000	208,700,000

収支差額	△ 11,336,200	△ 12,561,000	6,980,000	14,700,000	14,700,000
------	--------------	--------------	-----------	------------	------------

令和2年度繰越金	令和3年度繰越金	令和4年度繰越金	令和5年度繰越金	令和6年度繰越金	令和7年度繰越金
99,567,434	88,231,234	75,670,234	82,650,234	97,350,234	112,050,234

(1) 財務状況

- ・ 入学者数の減少により財務状況は極めて厳しい状況にある。人件費については、事務局員の人員の削減により費用を削減できたが、経常費補助金が減少し、私立大学改革総合支援事業 type1、type3 で補助金が獲得できなかったことで、収支は予想よりも悪くなった。加えて、経年の劣化による施設設備の修繕にかかる費用が増加しており、新規事業はなかなか行えない状況にある。

(2) 条件設定

- ・ 令和 5 年度以降、入学者は 77 名（うち職業訓練生 7 名）を想定。
- ・ 令和 5 年度以降は、補助金は 3,000 万円を想定。うち 500 万円は、私立大学等改革総合支援事業を想定している。
- ・ 人件費は、教員数 11 名、現状維持で想定。11 名は、文科省が定める最少人数。
- ・ 職業訓練生を受け入れる。7 名の入学者を想定。
- ・ 高校卒+職業訓練生の合計が 75~80 名であれば、収支が均衡する。ただし、減価償却特定引当金や将来に向けての資金の積み立てはできない。

(3) 人件費

人件費は、専任教員 11 名を想定している。これは文科省が定めるこの規模の保育学科の最少人数である。事務局員は R 2 年度から 1 名マイナスとし、5 名とした。また、一時金は 3.0 か月とした。

(4) 施設・設備更新

100 周年記念事業として、後援会、同窓会の積立金により、中庭にプロムナード、ファイヤーサークルを設置し、SDGs への取り組みを明確に打ち出す。

(5) 次年度繰越金

減少傾向が止まらないが、補助金 3,000 万円獲得でき、かつ高校卒+職業訓練生の合計が 75~80 名であれば、収支が均衡する。ただし、減価償却引当特定預金や将来に向けた資金の積み立てはできない。

(6) 積立金

積立金については、令和 4 年度については行わない。

(7) その他の経費節減

なお、経費節減については、平成 29 年度に合計約 900 万円の経費節減計画を実行し、平成 30 年度はさらに 210 万円の経費節減を実行した。令和 2 年度、令和 3 年度については、事務局員数を一名減員とし、業務の効率化と経費節減を図った。令和 4 年度は、前年度と同程度の支出抑制を計画している。

9. 行政の施策

(1) 埼玉県子育て応援行動計画

埼玉県全体では、新たな子育て応援行動計画（令和 2 年度から令和 6 年度）を策定し、保育の受け入れ枠の確保、認定こども園の整備、小規模保育事業等の連携施設の確保、延長保育の実施、保育人材の確保、保育環境の向上をうたい、保育施策の充実を計画している。

(2) 高等教育無償化

令和 2 年度から、高等教育の無償化が導入された。住民税非課税世帯を中心に年収 270 万円以下から 380 万円以下までの世帯が対象となる。本学は、令和元年度から高等教育無償化の対象となる短大として認可されている。

(3) 幼児教育無償化

令和元年 10 月から幼児教育・保育の無償化がスタートした。子どもを預ける世帯が増え、現場での保育士、幼稚園教諭への採用ニーズは高くなると予想される。

10. 令和3年度（2021年度）事業報告一覧表

	令和3年度（2021年度）	
学生募集 ・目標値	・ 入学者の数 100 名を基準。 ・ 資料請求数 1333（80 名を 6%とした場合）。来校数 135 名。志願者数 80 名が目標。 ・ 714 × 103 × 70 ×	× × ×
学生募集確保	・ コンサルタントの活用。 ・ 職業訓練生の募集 ・ ホームページデザインの更新、ランディングページ作成。 ・ SNS 広報の活用。 ・ 公民館等に履修プログラムの案内を配布する。 ・ 近隣の高等学校や地域の市町村との教育包括協定に基づき、地域貢献するとともに高校生、中学生、小学生が本学に訪問する機会を増やす。 ・ その他高校側のニーズを開拓（定時制高校、通信制高校などへのアプローチを強化） ・ 保育者に対して、待遇面についてのデータを作成したり、各自治体等が取り組んでいる補助金制度などをまとめたりし、本学から積極的に情報発信する。 ・ 高等学校への出前授業の強化。特に家庭科の授業の中で出前授業を展開し、本学の認知度を高める。家庭科では保育に関する授業内容で短大、大学での学びについて紹介したいというニーズがあり、それに応えることで地域への貢献も図る。 ・ 中学校、高校の PTA へのアプローチ。在校生に行ったアンケートによると、親からの勧めで入学している者が一定割合いることから、地元での認知度を高めるため、中学校約 40 校、高校約 20 校の目標値を掲げ、PTA 役員へのアプローチを展開する。 ・ 学生による画像、動画の作成、PR。	○ ○ ○ ○ ○ △ △ △ △ × ◎
経常費補助金・私立大学等改革総合支援事業	・ 経常費補助金の確実な獲得。 ・ タイプ1で 600 万円、タイプ3で 600 万円の獲得を目指す。	× ×
新カリキュラム策定・コンセプトの点検	・ 新カリキュラムの検討。 ・ 自然環境を保育に活かせるカリキュラムの検討。 ・ フィンランドの保育の研究。	○ ○ ×
卒業までに身につけるべき学習成果について	・ 設定された学習成果をもとに、そのチェックの仕方を確立 ・ カリキュラムツリー、ポートフォリオの運用定着。	○ ○
授業の質の向上	・ 前期、後期ともに問四 4.0 以上を目標とする。	◎
少人数教育の深化	・ 満足度調査において、友人との出会い、先生との出会いが 90%以上になることを目標とする。	△
実習	・ 保育実習Ⅰは 50 点以上、保育実習Ⅱは 55 点を基準。 ・ 教育実習Ⅰは 55.0、教育実習Ⅱは 58.0 を基準。	○
自然を活かした保育の実践	・ Natural 保育検定基礎編合格者数について、平成 30 年入学生の合格 60 名。平成 31 年入学者 45 名を目標。 ・ Natural 保育検定応用編合格者数について、平成 31 年入学生の合格者 30 名。平成 31 年入学者 15 名を目標。	○ △
生活指導	・ 退学者防止。退学者 0 を目標。	×
進路指導	・ 就職希望者数を母数とした就職率 100%以上を目標 ・ 公務員試験合格人数 4 名以上 ・ 就職先からのアンケートで「たいへんよい」の割合が、出勤状況 80%、勤務態度 70%、幼児への関わり方 50%、環境構成力 40%、保護者への関わり方 35%、他の職員との協調性 60%を目標	○ × ◎
施設・設備	・ 校舎のタイル補修 点検をし、補修計画を立てる。	△
学生満足度調査	・ 入学への満足度 80%、就職への満足度 85%、授業への満足度 75%、実習への満足度 75%、体験学習への満足度 80%、施設設備への満足度 70%、先生との出会いへの満足度 85%、友人との出会い 90%、自分の成長 80%を目標	○
人件費	・ 教員数については最少人数で臨む。 ・ 事務局員数は現状維持。	○ ○
資産売却	・ 研修センターの売却。	×